

問1 律令制下で、九州北部の守備を担当した兵士の任務を何という？

1. 徴兵制度 2. 軍事訓練 3. 沿岸警備 4. 辺境警備

問2 人口増加により不足し、開墾のきっかけとなった、政府が農民に与えた土地を何という？

1. 口分田 2. 公田 3. 職田 4. 位田

問3 班田収授法によって、国が戸籍に基づいて6歳以上の男女に分け与えた土地のことを何という？

1. 職分田 2. 口分田 3. 位田 4. 功田

問4 奈良時代の僧・行基が、民衆のために橋の架設、池の造成、道路整備などを行った活動を総称して何という？

1. 租税徴収 2. 戸籍作成 3. 軍事動員 4. 社会事業

問5 防人たちが詠んだ歌などが収められている、日本最古の歌集を何という？

1. 万葉集 2. 懷風藻 3. 古今和歌集 4. 新古今和歌集

問6 奈良時代、政府による統制が強まる中で、民衆の間を巡り歩いて深く信仰を集めた宗教を何という？

1. 儒教 2. 道教 3. 仏教 4. 神道

問7 郡司が指揮下に入っていた、中央から派遣された地方長官のことを何という？

1. 里長 2. 防人 3. 郡司 4. 国司

問8 710年に唐の都である長安をモデルにして建設された、奈良の都を何という？

1. 藤原京 2. 平城京 3. 平安京 4. 長岡京

問9 大化の改新以降、土地や人々はすべて天皇（国家）のものであるとする原則を何という？

1. 公地公民 2. 一国平均役 3. 土地台帳 4. 荘園公領制

問10 平城京の道路が整然と区画されていた様子を例える表現を何という？

1. 過密都市 2. 散村 3. 碁盤の目 4. 条坊制

問11 743年に出され、開墾した土地を永久に私有することを認めることで、土地の私有化を広めた法律を何という？

1. 大化の改新 2. 三世一身法 3. 大宝律令 4. 墾田永年私財法

問12 唐だけでなく、シルクロードを経由して日本に影響を与えた地域の文化を何という？

1. 中央アジア 2. 西アジア 3. 東アジア 4. 東南アジア

問13 743年に発令され、新しく開墾した土地の永代私有を認めることで、土地の私有化を推進した法律を何という？

1. 三世一身法 2. 大化の改新 3. 墾田永年私財法 4. 大宝律令

問14 律令制において、郡の長として地方の政治を担った有力者を何という？

1. 豪族 2. 百姓 3. 貴族 4. 渡来人

問15 戸籍に基づいて6歳以上のすべての人々に田地を分け与え、そのかわりに税を徴収する制度を何という？

1. 戸籍法 2. 租庸調 3. 庚午年籍 4. 班田収授法

問16 大伴家持が活躍し、万葉集がまとめられたのは何時代？

1. 平安時代 2. 奈良時代 3. 飛鳥時代 4. 鎌倉時代

答え合わせ・解説

問1	答え 3 沿岸警備	防人は、律令制における国防の要として、特に重要視された九州北部の防衛を任されました。農民の中から徴兵されて派遣されましたが、任期は長く、遠い故郷を離れて厳しい監視活動が続けなければなりませんでした。彼らの任務は国の平穏を守るための最前線でした。
問2	答え 1 口分田	口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。
問3	答え 2 口分田	6歳以上の男女に対し、戸籍の記載に従って一定面積の口分田を支給しました。農民はその土地で耕作する代わりに、租などの税を納める義務を負いました。土地は私有ではなく、本人が死亡した際には国に返還する決まりでした。
問4	答え 4 社会事業	「社会事業」は、行基が全国各地を回り、民衆の生活を助けるために行ったインフラ整備を指します。橋を架け、道路を直し、ため池を作るといった活動は、農地の拡大や流通の促進に役立ちました。こうした行動は人々の暮らしを具体的に改善し、当時の朝廷から弾圧を受けながらも圧倒的な民衆の支持を得ました。
問5	答え 1 万葉集	万葉集は、約4500首の歌を収めた日本最古の歌集です。特徴は、天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった一般庶民の素朴で力強い感情がそのまま記されている点にあります。防人が詠んだ「防人の歌」には、国を守る誇りと家族への思慕が混ざり合い、当時の社会の現実がリアルに表現されています。
問6	答え 3 仏教	当時の仏教は、国家の公的な儀式のみならず、次第に一般民衆の生活や心にも浸透していきました。行基などの僧侶が、禁じられていた私的な布教活動を行い、民衆を救済するために活動したことで、広い層に広まりました。
問7	答え 4 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問8	答え 2 平城京	平城京は、710年に元明天皇によって奈良の地に建設された都です。唐の都である長安をモデルにして設計され、天皇を中心とした政治体制を整えるための国家の拠点となりました。計画的に道路が配置され、貴族の邸宅や立派な寺院が立ち並び、当時としては非常に高いレベルの都市機能を持っていました。
問9	答え 1 公地公民	公地公民とは、すべての土地と人民を国家が直接管理し、公的なものとする原則です。これにより戸籍を作り、国民に田地を分け与えることで、税を徴収する仕組みを整えました。
問10	答え 3 碁盤の目	平城京の道路は、東西南北に直線的に整備され、まるで碁盤の盤のような「碁盤の目」状の区画（条坊制）となっていました。これにより、中央政府の役所や寺院、貴族の家などが計画的に配置され、非常に秩序だった都市空間が実現しました。この構造は、後の平安京にも受け継がれることとなります。
問11	答え 4 墾田永年私財法	政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようとしてしました。
問12	答え 2 西アジア	日本が派遣した遣唐使を通じて、唐には西アジアのペルシャ文化やインドの仏教美術などが流入していました。それらは日本にも伝わり、東大寺の正倉院に収められている宝物の中に、ガラス器や独特の模様が施された品々として確認できます。
問13	答え 3 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地を一定の条件のもとで永久に私有することを認めた制度です。それまでの「公地公民」の原則を大きく転換し、貴族や寺院による土地開発を促進しました。
問14	答え 1 豪族	郡司は、国司の指揮下に入り、戸籍の作成や徴税の補助といった行政の実務を行いました。終身制であったため、現地の地盤を持つ豪族たちがその地位を世襲的に継承することが一般的でした。
問15	答え 4 班田収授法	班田収授法は、6歳以上の男女に口分田という田地を貸し与え、その人が亡くなれば国に返させる制度です。この田地から収穫された米の一部が税として国家に納められました。
問16	答え 2 奈良時代	奈良時代は、仏教文化が花開くとともに、国史の編纂や文学作品の執筆が盛んに行われた時期です。歌人である大伴家持はこの時代の末期に活躍し、彼を中心に日本最古の歌集である『万葉集』が編纂されました。この時代、国家が整い、大陸の文化を吸収しながら日本独自の個性を確立しようという気運が強まっていました。